

ズームイン

滝善の社長に就いた

滝 宏明 氏



たき・ひろあき 大学卒業後、2000年に渡米し、パースナイズ美術大学入学。同大卒業後の03年に滝善入社。15年取締役、22年専務、25年10月から現職。49歳。

「挑戦し続ける会社でありたい」。昨年10月29日付で社長に就任し、理想の会社像をこう表現する。トレンドの移り変わりが激しいファッション

「1997年に父の正善氏が急逝したことで、家業を継承するという思いが芽生えた。父が頑張ってきた会社を今後も残していきたいと強く思った」。家業に向き合いたい

業界では「止まっているだけでは停滞する」と強調し、「自分が先頭に立って、チャレンジしていく」と語る。全ての服は系から生まれる。ニット系製造卸として顧客のこだわりに対応する。

と考え、グローバルにファッションを学ぶため渡米を決意。大学卒業後の2000年に米国のパースナイズ美術大学へ進学、ファッションビジネスを専攻し、3年半勉学に励んだ。

米国での生活に慣れ始

んだ瞬間を目撃。「あまりにも現実離れしていて、以降は記憶がない」。米国の大学を無事卒業し、03年に滝善へ入社した。系の開発に長らく携わり、22年の専務就任まで続けた。入社2年目からはイタリア系の販売代

数字は伸び、10年には海外に出でくることもあり、「枕元にノートを置き、出てきたアイデアを書き留められるようにしていた」と振り返る。

細い一本の糸であつても、風合いや見た目、形状などで微妙な違いを打ち出す。その些細な差をきっちり提案できることが当社の強みでもある。一枚の服になった時にその違いが明確に表れる。

一本の糸、些細な違いで勝負

めた01年9月11日、1限目の授業が始まる直前だった。先生が教室に慌てて入ってきて、飛行機がビルに突っ込んだと言った。同時多発テロだった。ワールドトレードセンターは大学と同じ地区にあり、2機目が突っ込

め、留学経験があつたため、二、三々海外志向は強か

外販売部を立ち上げるに至った。同社は年間で千点の試作品を作るほど、系の開発に力を入れている。その中から商品化できるのは1割にも満たない。頭

「顧客の多彩なこだわりに応えられる。それが今後を生き残る道でもある」

た。7代目の社長となった昨年は令和7年で会社の77期目に当たる。スリーセブンならぬ、フーセブンで「フューバー

できた」と笑う。(川)

中に出でくることもあり、「枕元にノートを置き、出てきたアイデアを書き留められるようにしていた」と振り返る。

細い一本の糸であつても、風合いや見た目、形状などで微妙な違いを打ち出す。その些細な差をきっちり提案できることが当社の強みでもある。一枚の服になった時にその違いが明確に表れる。